

3. 生物多様性について

(1) 生物多様性について

«生物多様性の認知度»

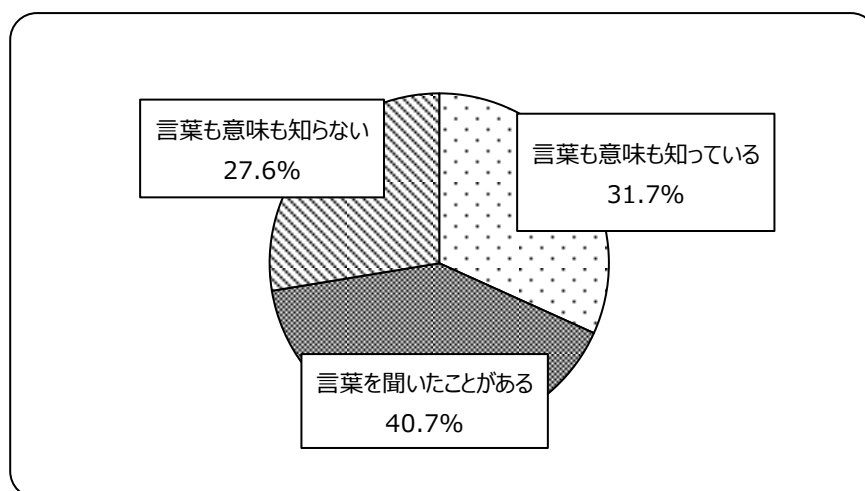
問 40. 生物多様性という言葉やその意味を知っていますか。

※生物多様性とは、たくさんの種類の生き物がにぎわい、つながりをもって生活していることです。

【選択は 1 つ】

「言葉も意味も知っている」及び「言葉を聞いたことがある」の合計が 72.4%であった。令和 2 年度の合計 80.9%から減少したものの、高い水準で推移していることがわかった。さらに多くの市民に生物多様性を周知し、その保全に向けた行動につなげるため、今後も積極的かつ効果的な広報を行う。

	選択項目 (N=482)	回答数	構成比
1	言葉も意味も知っている	153	31.7%
2	言葉を聞いたことがある	196	40.7%
3	言葉も意味も知らない	133	27.6%
	計 (回答総数)	482	100.0%



《生態系サービスの認識度》

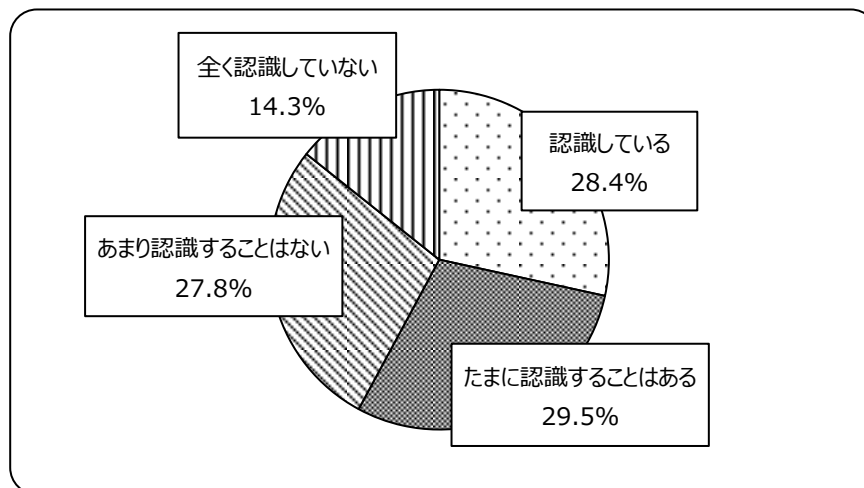
問 41. 生物多様性によりもたらされる恵みのことを「生態系サービス」といい、命の源である水や空気の供給や衣食住など生活に必要な物の多くが、多種多様な動物や植物からもたらされていますが、このことについて認識していますか。 【選択は 1 つ】

「認識している」が 28.4%で、平成 29 年度の 15.7%から大きく増加していることがわかった。

市広報媒体等で、生物多様性の記事を継続的に掲載するなど、生物多様性の情報発信を進めたことで、認識度が上昇したものと考えられる。

今後は、この生態系サービスを持続可能なものにするために市民ができることをわかりやすく広報することで、実際の行動へとつなげる必要がある。

	選択項目 (N=482)	回答数	構成比
1	認識している	137	28.4%
2	たまに認識することはある	142	29.5%
3	あまり認識することはない	134	27.8%
4	全く認識していない	69	14.3%
	計 (回答総数)	482	100.0%



「認識している生態系サービスについて」

問 42. 問 41 で「1 認識している」「2 たまに認識することはある」と回答された方に伺います。あなたの身の回りでのようなことに恩恵を感じますか。 【複数選択可：いくつでも】

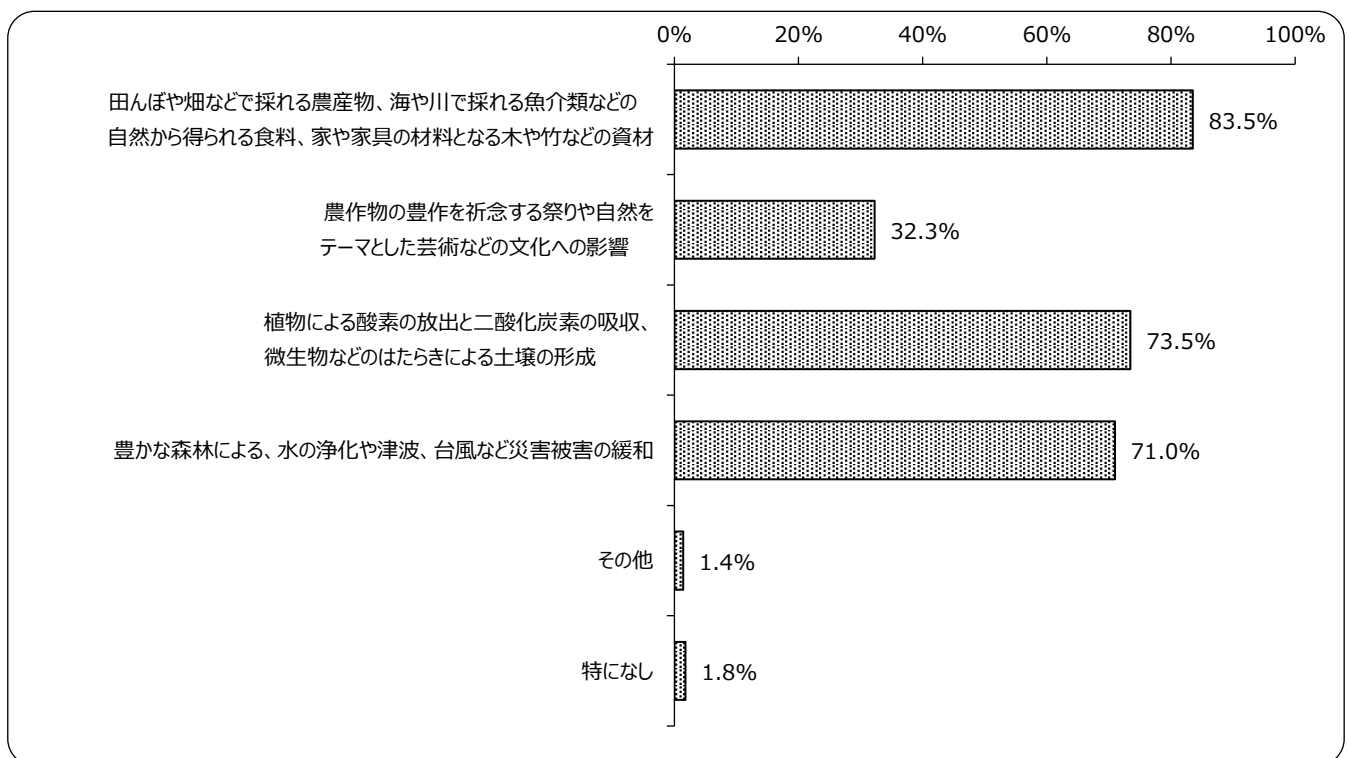
「田んぼや畑などで採れる農産物、海や川で採れる魚介類などの自然から得られる食料、家や家具の材料となる木や竹などの資材」、「植物による酸素の放出と二酸化炭素の吸収、微生物などのはたらきによる土壌の形成」、「豊かな森林による、水の浄化や津波、台風など災害被害の緩和」いずれも回答率が 70%を上回っており、日常生活の身近なことに対して恩恵を感じる傾向にあることがわかった。

	選択項目 (N=279)	回答数	回答数/N
1	田んぼや畑などで採れる農産物、海や川で採れる魚介類などの自然から得られる食料、家や家具の材料となる木や竹などの資材	233	83.5%
2	農作物の豊作を祈念する祭りや自然をテーマとした芸術などの文化への影響	90	32.3%
3	植物による酸素の放出と二酸化炭素の吸収、微生物などのはたらきによる土壌の形成	205	73.5%
4	豊かな森林による、水の浄化や津波、台風など災害被害の緩和	198	71.0%
5	その他	4	1.4%
6	特になし	5	1.8%

[5 その他]

【主な回答】

- きれいな空気
- 木陰
- 森林破壊による土砂災害の発生を知ったとき



「生態系サービスの提供場所」

問 43. 問 41 で「1 認識している」「2 たまに認識することはある」と回答された方に伺います。あなたの身の回りでの
 ような場所が生態系サービスを提供していると感じますか。 【複数選択可：いくつでも】

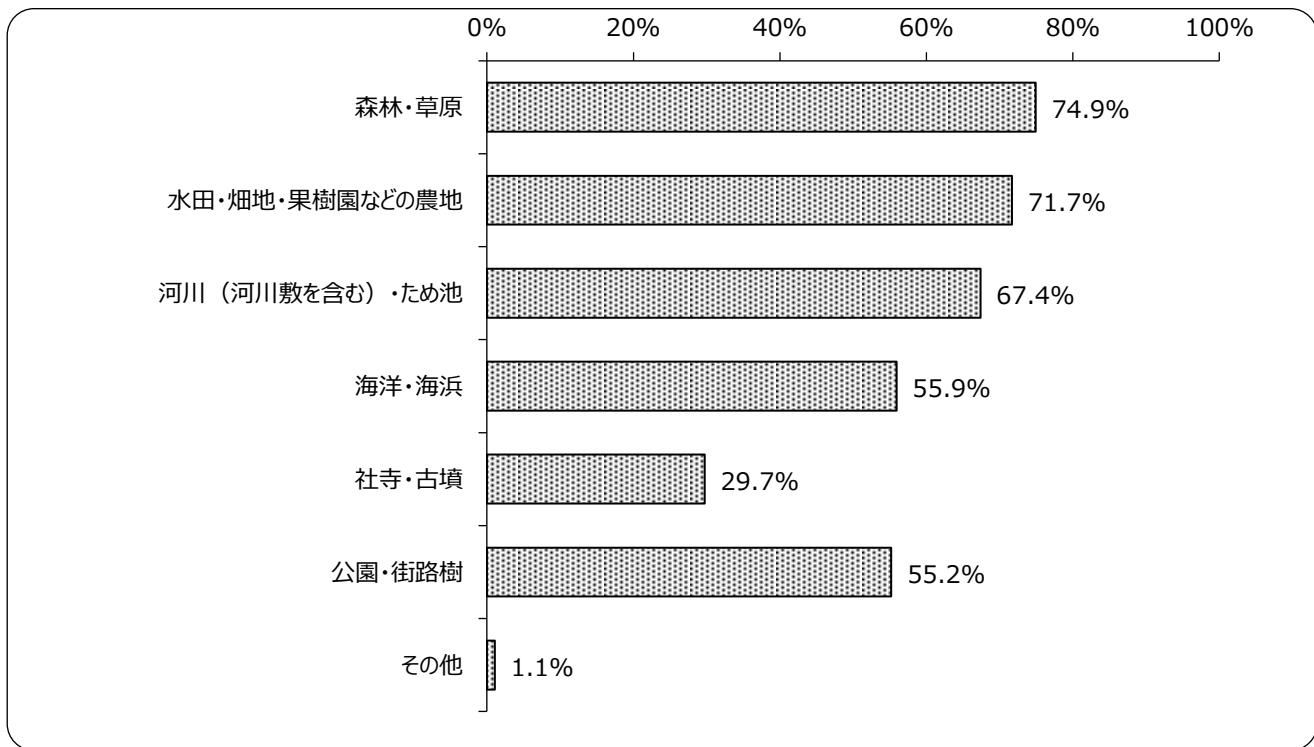
食料・資材の提供、防災など日常生活に身近な生態系サービスを提供している「森林・草原」、「水田・畑地・果樹園な
 どの農地」、「河川（河川敷を含む）・ため池」などの場所がサービスの提供場所と認識されている傾向にあることがわっ
 た。

	選択項目（N=279）	回答数	回答数/N
1	森林・草原	209	74.9%
2	水田・畑地・果樹園などの農地	200	71.7%
3	河川（河川敷を含む）・ため池	188	67.4%
4	海洋・海浜	156	55.9%
5	社寺・古墳	83	29.7%
6	公園・街路樹	154	55.2%
7	その他	3	1.1%

[7 その他]

【すべての回答】

●各家庭の庭



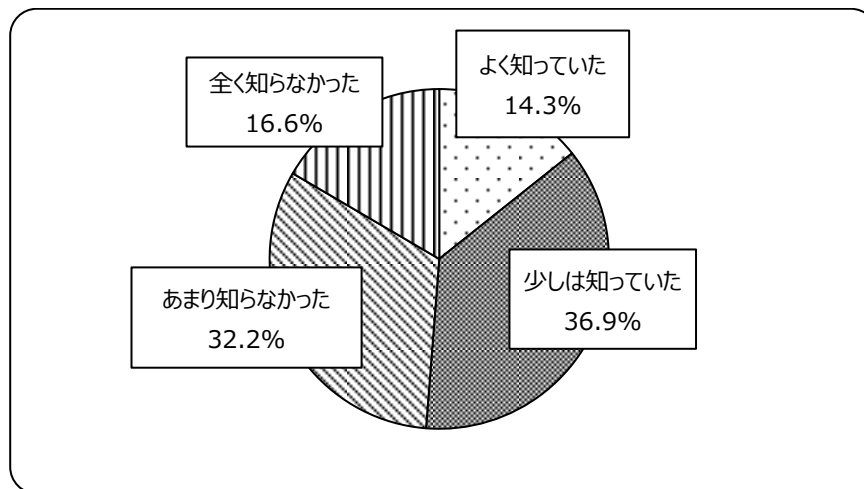
《生物多様性の危機に関する認識度》

問 44. 現在、人間活動による影響が主な要因となって「生物多様性」が危機に瀕（ひん）していますが、このことを知っていましたか。なお、日本でも、両生類の 5 割強、汽水・淡水魚類※の 4 割強、は虫類の 3 割強、哺乳類、維管束植物（木や草）の 2 割強、鳥類の 1 割の種に絶滅の恐れがあるとされています。【選択は 1 つ】

「よく知っていた」及び「少しは知っていた」の合計は 51.2%であった。平成 29 年度の合計 68.3%には及ばないが、半数以上の方が、様々な種が絶滅の恐れにあることについて認識していることがわかった。

	選択項目 (N=482)	回答数	構成比
1	よく知っていた	69	14.3%
2	少しは知っていた	178	36.9%
3	あまり知らなかった	155	32.2%
4	全く知らなかった	80	16.6%
	計 (回答総数)	482	100.0%

※汽水域（河口など淡水と海水が混じり合う箇所）及び淡水に生息する魚類

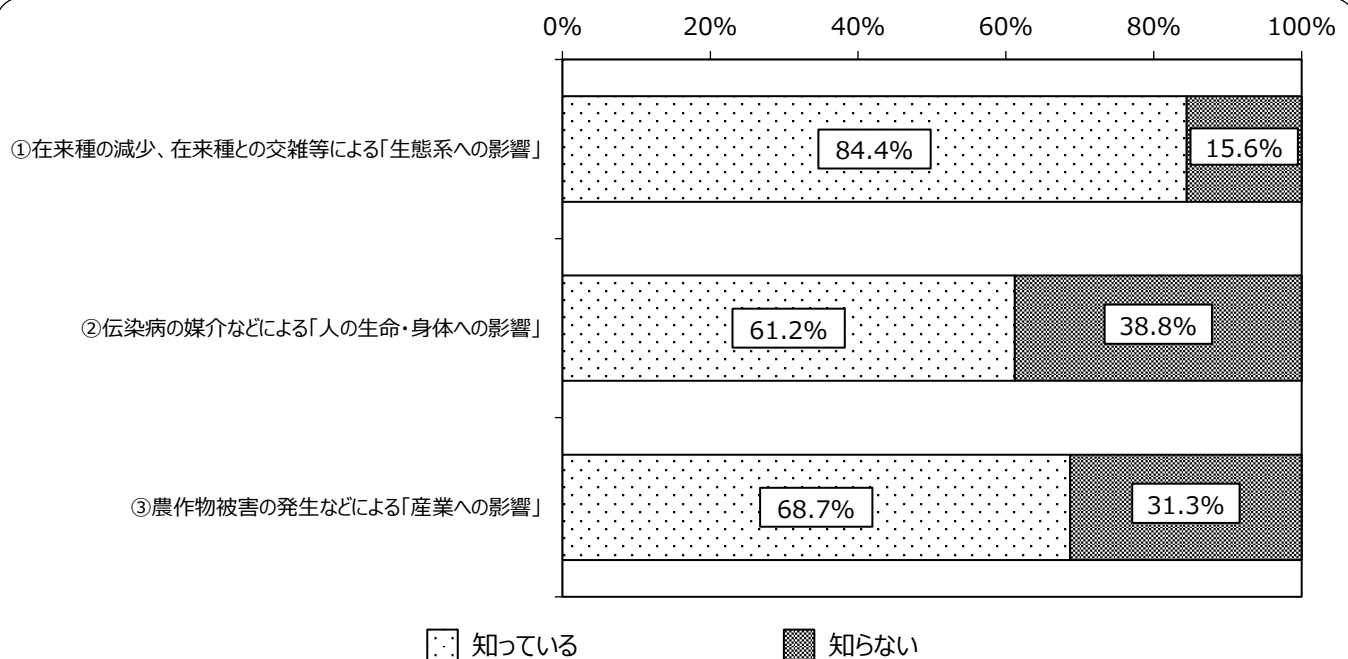


「外来生物による影響に関する認識度」

問 45. 外来生物の侵入は、生態系だけでなく、私たちの暮らしにも大きく影響を与えています。次の「外来生物が及ぼす影響」の内、知っているものを選んでください。 【各項目：選択は 1 つ】

いずれの選択項目も、6 割から 8 割以上の方が、外来種の侵入が暮らしにも大きな影響を与えていると感じていることがわかった。外来生物による影響は高い水準で認識されており、今後はこの問題に対する市民の行動を促進する必要がある。

選択項目（N=482）	知っている	知らない	計（回答総数）
①在来種の減少、在来種との交雑等による「生態系への影響」	407 84.4%	75 15.6%	482 100.0%
②伝染病の媒介などによる「人の生命・身体への影響」	295 61.2%	187 38.8%	482 100.0%
③農作物被害の発生などによる「産業への影響」	331 68.7%	151 31.3%	482 100.0%



(2) 本市による生物多様性の保全に係わる取組について

本市では、平成 25 年 3 月に策定した「生物多様性・堺戦略」に基づき、多様な主体との協働により各種取組を進めているところです。

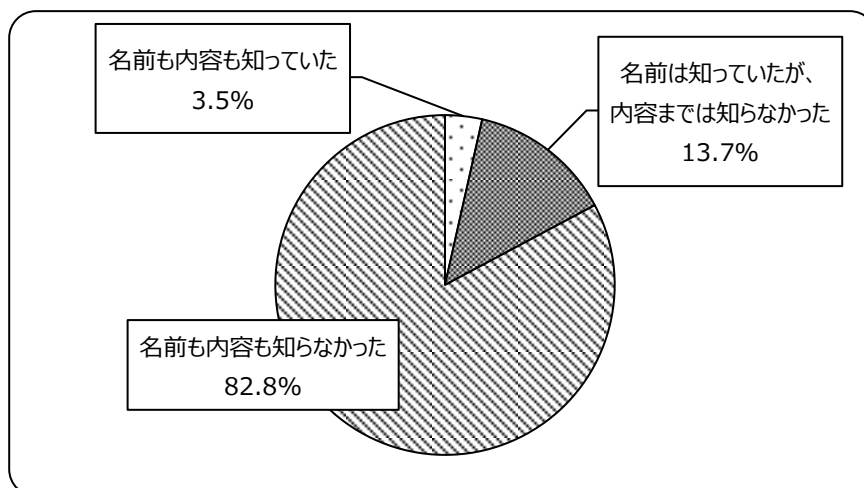
その取組の一つとして、平成 28 年 3 月に生物多様性ウェブサイト「堺いきもの情報館」を開設し、市民等からの写真投稿による「いきものマップ」の作成や小学校の授業で活用できる教材（動画集等）の提供、令和 4 年 1 月には子ども向けページ「堺いきもの情報館 for Kids（きっず）」を開設し、生物多様性の認知度の向上と市民・団体の活動促進を行っています。

《生物多様性・堺戦略の認知度》

問 46. 本市では、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する施策を総合的かつ計画的に進めるため、平成 25 年 3 月に「生物多様性・堺戦略」を策定しましたが、本戦略について知っていましたか。 【選択は 1 つ】

「名前も内容も知っていた」及び「名前は知っていたが、内容までは知らなかった」の合計が 17.2%であった。平成 29 年度の 23.8%に比べても低く、「生物多様性・堺戦略」の知名度及び認知度ともに低いことがわかった。

	選択項目 (N=482)	回答数	構成比
1	名前も内容も知っていた	17	3.5%
2	名前は知っていたが、内容までは知らなかった	66	13.7%
3	名前も内容も知らなかった	399	82.8%
	計 (回答総数)	482	100.0%



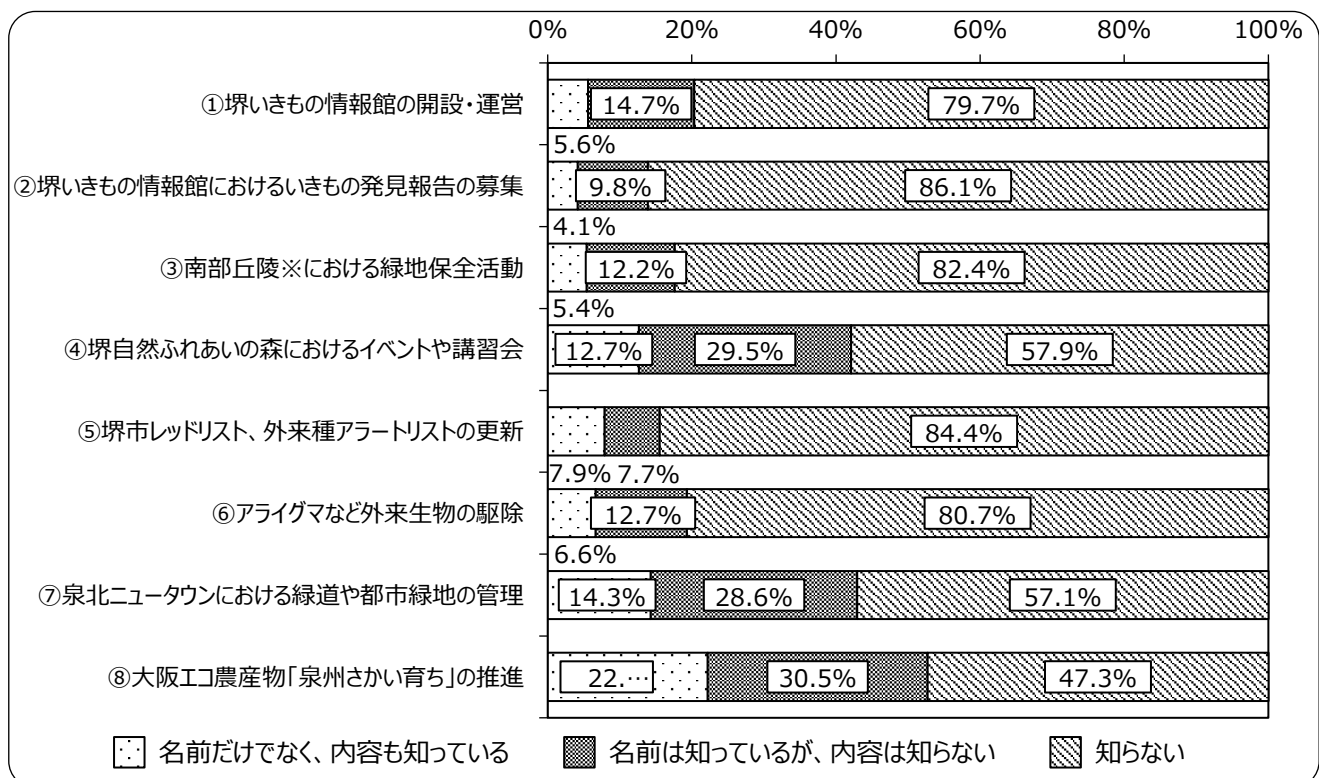
「本市による生物多様性の保全に関する取組の認知度について」

問 47. 本市ではこの 10 年間、生物多様性・堺戦略に基づき様々な取組を進めてきました。これまで本市が実施してきた取組の中で知っているものはありますか。 【各項目：選択は 1 つ】

「名前だけでなく、内容も知っている」及び「名前は知っているが、内容は知らない」を合計すると、「大阪エコ農産物」「泉州さかい育ち」の推進」が 52.7%、「泉北ニュータウンにおける緑道や都市緑地の管理」が 42.9%、「堺自然ふれあいの森におけるイベントや講習会」が 42.2%であった。身近な食材や住環境における取組の知名度が高いことがわかった。一方で、堺いきもの情報館の知名度が低いことがわかったため、引き続き情報発信を進める。

選択項目 (N=482)	名前だけでなく、内容も知っている	名前は知っているが、内容は知らない	知らない	計 (回答総数)
①堺いきもの情報館の開設・運営	27 5.6%	71 14.7%	384 79.7%	482 100.0%
②堺いきもの情報館におけるいきもの発見報告の募集	20 4.1%	47 9.8%	415 86.1%	482 100.0%
③南部丘陵※における緑地保全活動	26 5.4%	59 12.2%	397 82.4%	482 100.0%
④堺自然ふれあいの森におけるイベントや講習会	61 12.7%	142 29.5%	279 57.9%	482 100.0%
⑤堺市レッドリスト、外来種アラートリストの更新	38 7.9%	37 7.7%	407 84.4%	482 100.0%
⑥アライグマなど外来生物の駆除	32 6.6%	61 12.7%	389 80.7%	482 100.0%
⑦泉北ニュータウンにおける緑道や都市緑地の管理	69 14.3%	138 28.6%	275 57.1%	482 100.0%
⑧大阪エコ農産物「泉州さかい育ち」の推進	107 22.2%	147 30.5%	228 47.3%	482 100.0%

※南区鉢ヶ峯寺地区、同区別所地区等の樹林地、農地、ため池等の自然環境のこと



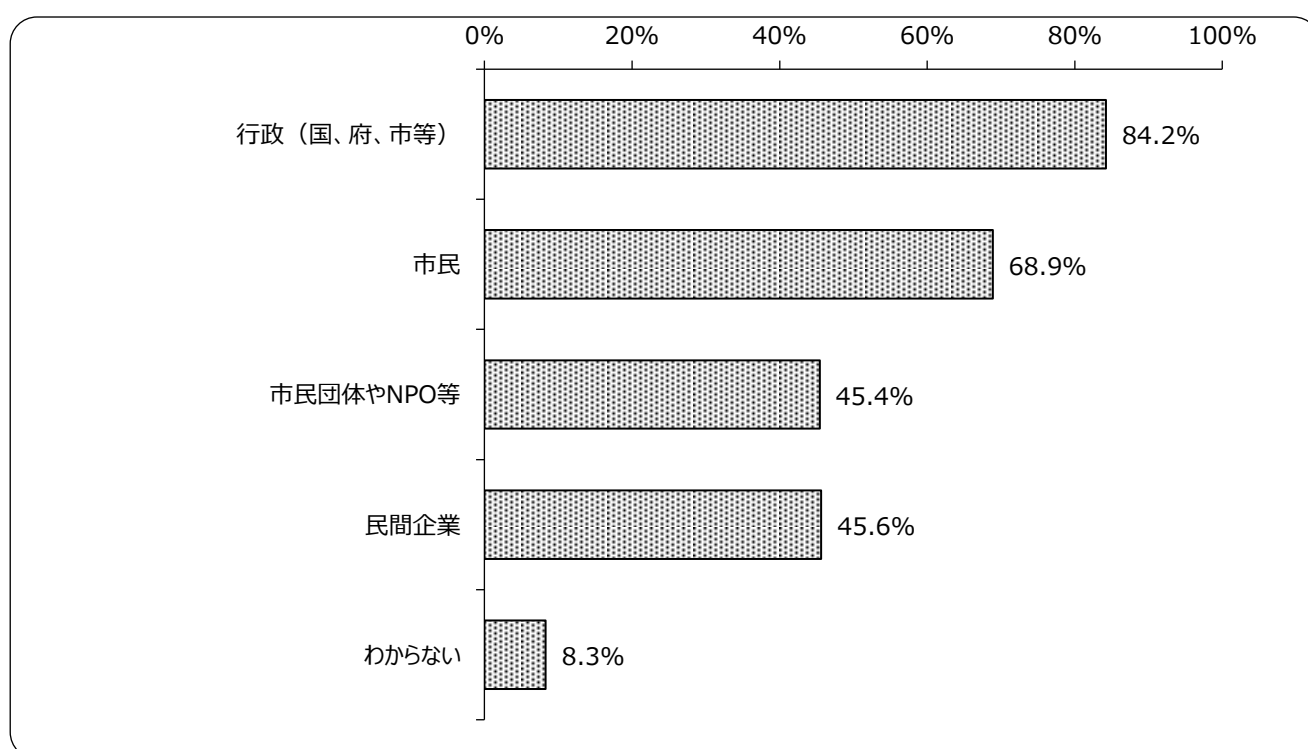
(3)「生物多様性」を保全するための取組について

«生物多様性保全取組の実施者»

問 48.「生物多様性」を保全する取組について、誰が取り組む必要があると思いますか。【複数回答可：いくつでも】

「行政（国、府、市等）」だけでなく、「市民」、「市民団体や NPO 等」、「民間企業」といった行政以外の主体も高い割合を占めており、「生物多様性」を保全するためには、すべての主体が取り組む必要があると認識されていることがわかる。

	選択項目 (N=482)	回答数	回答数/N
1	行政（国、府、市等）	406	84.2%
2	市民	332	68.9%
3	市民団体やNPO等	219	45.4%
4	民間企業	220	45.6%
5	わからない	40	8.3%



「自然環境等を考慮した実践取組」

問 49. 自然環境や生き物のことを考えて、日頃から心がけていたり実践したりしていることはありますか。

【複数回答可：いくつでも】

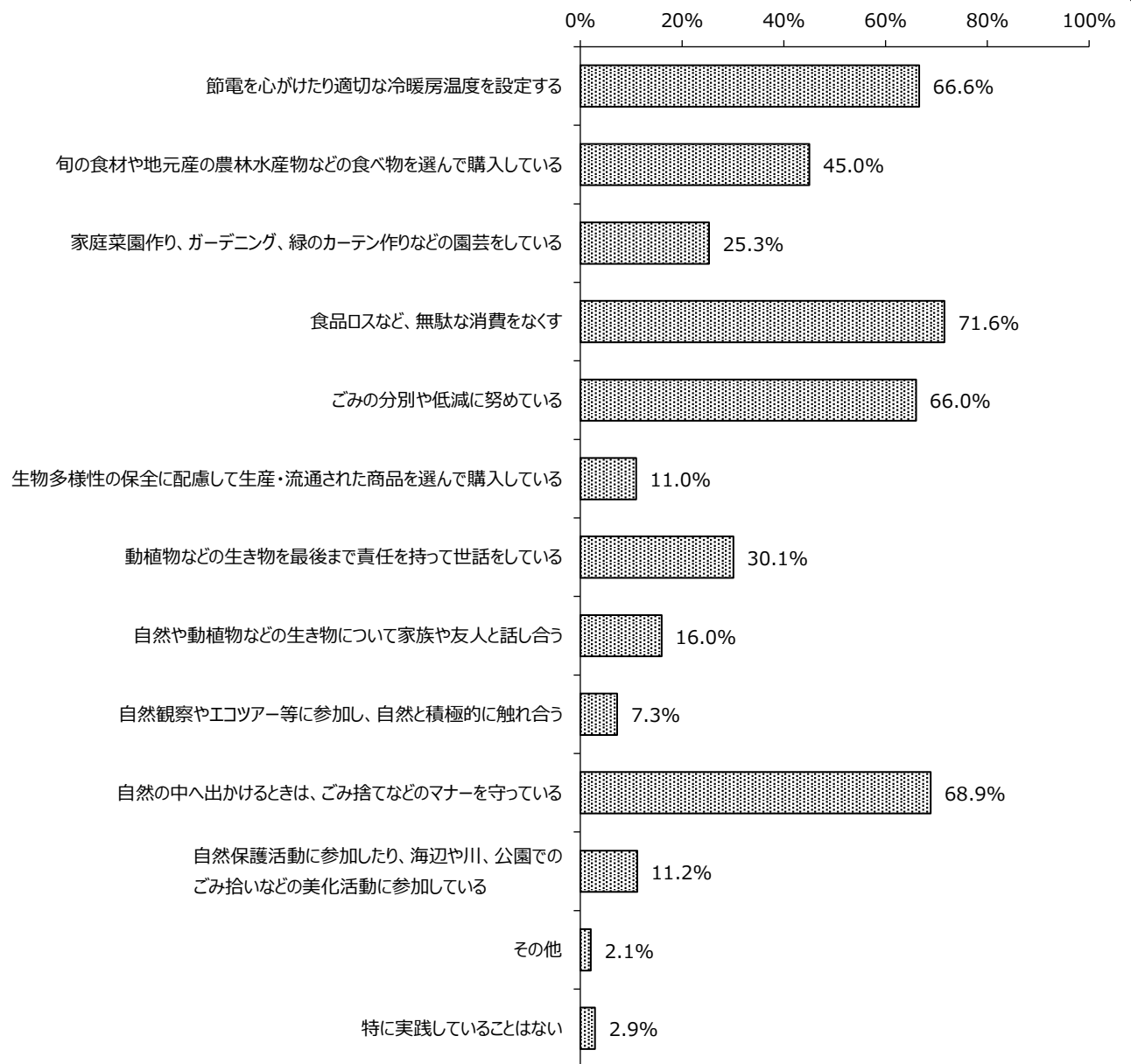
「食品ロスなど、無駄な消費をなくす」が 71.6%と最も高く、次いで「自然の中へ出かけるときは、ごみ捨てなどのマナーを守っている」が 68.9%、「節電を心がけたり適切な冷暖房温度を設定する」が 66.6%と続いており、日常生活で実践する行動が多く回答されている。今後、身近な取組が生物多様性の保全につながるということをわかりやすく市民に伝え、さらなる取組の促進を図る。

	選択項目（N=482）	回答数	回答数/N
1	節電を心がけたり適切な冷暖房温度を設定する	321	66.6%
2	旬の食材や地元産の農林水産物などの食べ物を選んで購入している	217	45.0%
3	家庭菜園作り、ガーデニング、緑のカーテン作りなどの園芸をしている	122	25.3%
4	食品ロスなど、無駄な消費をなくす	345	71.6%
5	ごみの分別や低減に努めている	318	66.0%
6	生物多様性の保全に配慮して生産・流通された商品を選んで購入している	53	11.0%
7	動植物などの生き物を最後まで責任を持って世話をしている	145	30.1%
8	自然や動植物などの生き物について家族や友人と話し合う	77	16.0%
9	自然観察やエコツアー等に参加し、自然と積極的に触れ合う	35	7.3%
10	自然の中へ出かけるときは、ごみ捨てなどのマナーを守っている	332	68.9%
11	自然保護活動に参加したり、海辺や川、公園でのごみ拾いなどの美化活動に参加している	54	11.2%
12	その他	10	2.1%
13	特に実践していることはない	14	2.9%

[12 その他]

【主な回答】

- 無農薬の野菜を選んでいる。



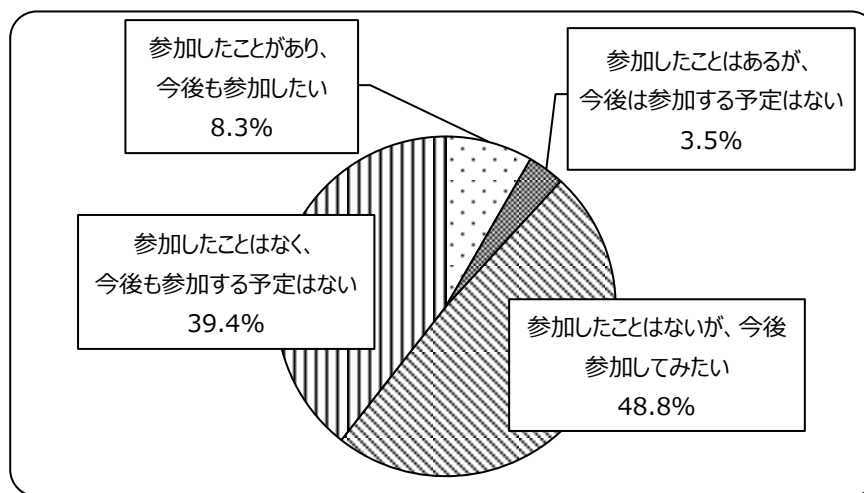
「生物多様性保全活動への参加の有無」

問 50. 植樹や自然観察会など、生物多様性の保全を推進するような活動に参加したことはありますか。【選択は 1 つ】

「参加したことはないが、今後参加してみたい」との回答が 48.8%であり、およそ半数の方が生物保全活動への参加に関心があることに対し、参加したことがあると回答した方は、「参加したことがあり、今後も参加したい」、「参加したことはあるが、今後は参加する予定はない」の合計 11.8%であった。また、参加したことがある方の中で、今後も参加したいと回答した割合は、 $70.3\% \left(\frac{8.3}{8.3+3.5} \times 100 \right)$ と高いことがわかった。

これまで参加経験のない市民に対して、市内における保全活動の実施状況を的確に発信し、気軽に保全活動に参加できる機会を提供することが今後の課題である。

	選択項目 (N=482)	回答数	構成比
1	参加したことがあり、今後も参加したい	40	8.3%
2	参加したことはあるが、今後は参加する予定はない	17	3.5%
3	参加したことはないが、今後参加してみたい	235	48.8%
4	参加したことはなく、今後も参加する予定はない	190	39.4%
	計 (回答総数)	482	100.0%



「関心のある生物多様性保全活動」

問 51. 問 50 で「1 参加したことがあり、今後も参加したい」「2 参加したことはあるが、今後は参加する予定はない」「3 参加したことはないが、今後参加してみたい」と回答した方に伺います。次の生物多様性保全活動についての関心や参加状況を教えてください。 【各項目：選択は 1 つ】

「取り組んだことはないが、取り組んでみたい」と回答した割合は、いずれの活動においても高く、最も少ないもので「⑤外来植物を駆除する活動」における 47.3%であった。高い関心がある一方で、参加割合が低調であることを踏まえると、選択項目にある生物多様性保全活動を知らなかった方も一定数いることが予想される。

選択項目 (N=292)	取り組んだことがあり、今後も取り組みたい	取り組んだことはないが、取り組んでみたい	取り組んだことはあるが、今後は取り組みたくない	取り組んだことがなく、今後も取り組みたくない	計 (回答総数)
①堺いきもの情報館の閲覧・ネットイベントへの参加	14 4.8%	222 76.0%	10 3.4%	46 15.8%	292 100.0%
②堺いきもの情報館におけるいきもの発見報告	9 3.1%	204 69.9%	15 5.1%	64 21.9%	292 100.0%
③堺自然ふれあいの森におけるイベントや講習会等への参加	21 7.2%	219 75.0%	22 7.5%	30 10.3%	292 100.0%
④自然環境や生き物に関するイベントの企画	16 5.5%	203 69.5%	17 5.8%	56 19.2%	292 100.0%
⑤外来植物を駆除する活動	14 4.8%	138 47.3%	18 6.2%	122 41.8%	292 100.0%
⑥在来植物を選びベランダや玄関先、庭へ植栽	37 12.7%	174 59.6%	23 7.9%	58 19.9%	292 100.0%
⑦生物多様性の保全に配慮して生産・流通された商品の購入	49 16.8%	187 64.0%	18 6.2%	38 13.0%	292 100.0%

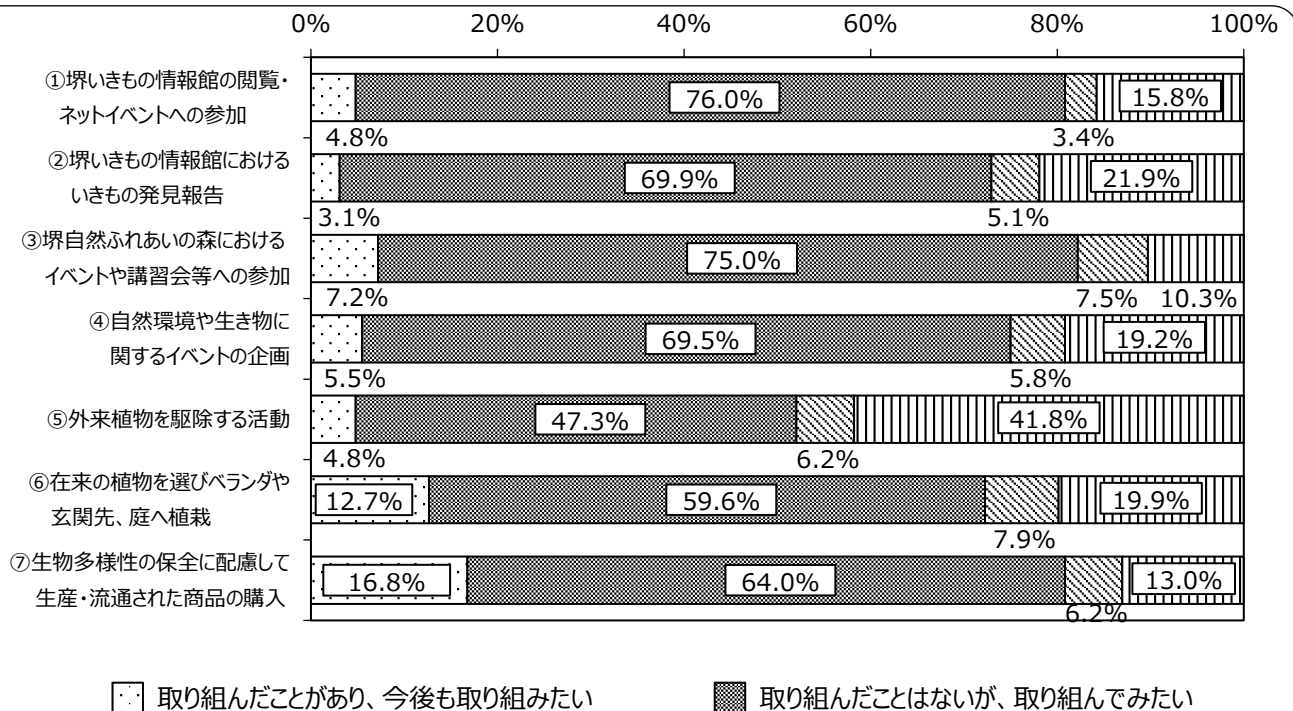
〔①～⑦以外の活動について関心や参加状況〕

【回答一覧】

- 自治会の地域美化清掃活動に積極的に参加しています。
- 子どもと一緒にイベントに参加したいと思っていますが、情報の取り方がわかりません。広報さかいを読んでるつもりなんですが、気がついていませんでした。ネットで検索してみます。保育園ではふれあいの森へ年数回遠足にいったて、子どもはとてもし刺激を受けているようです
- 東百舌鳥小学校、花のボランティア『ミルフル』メンバーとして活動しています。
- 植樹のボランティアがあれば是非とも参加したいです。以前、札幌に住んでいたときは小学校や森に必要時、草刈りをして植樹するボランティアに参加していました。
- 公園に花を咲かせている。
- 大泉緑地には自然がたくさんあり花や鳥を見に来てる人が多くて癒されるのでよく行く。ゴミが落ちていたら拾うしきれいな状態を維持する朝活動をしている。
- 検定試験が気になっています。講習会などあればもっと興味が深くなりそうです。
- 南区までが遠い。市内の身近な場所で、生き物のことを知れる機会があるとよりいいと思う。
- 大人に広めるより今後の世の中を支える子どもから教える無料のイベントがあればいい。
- ポイ捨てをすることで生き物がゴミを食べるリスクがあるので、ポイ捨てをみんながしないような社会にしてほしい。また、ゴミ拾いのボランティアなど気軽に参加できるようにしてほしい。ふれあい、という名目で動物を触ったり、動物にストレスがかかるような催しは嫌だなあ、と思います。堺市から環境に配慮することを発信して、動植物に優しい街にしてほしい。

- 生物多様性云々は頭で理解できるが手が出ないのが実情。もう少し具体的な内容、活動の理解がほしい。啓蒙・啓発活動をもう少し活発に・・・
- 情報入手は広報のみ（わざわざ自分からネットで検索などしない）のため、特集や別冊などあればありがたい。町の掲示板への掲示もあればありがたい。すでにあるのかも知れないが、会員登録などがあればしたいと思うし、メルマガなども購読してみたい。
- 堺市で田植えや農業体験のイベントをもっと増やしてほしいと思います。
- 自然環境には関心があるが、外来生物や植物にまでは考えが及んでいなかった。今後関心を持ちたいと考えている。
- 無料は怖いですが、無料だったり子ども参加とかだったらやってみたい。
- 間違った知識（例えば、池に新たな生き物を放流したせいで池の環境がとても悪化した事実について（堺中央典礼会館の後ろにある池がそういったことが起こっている））を改善する機会は作らないと環境が悪化してしまうので講習会（face-to-face, 対面）とか開催してほしい。
- 外来種は繁殖力も強く厄介です。自然保護推進に加え、外来種駆除も推進するべきだと思います。
- 極端かもしれないが奄美大島だったか、ハブを駆除した場合、買取してくれるとか聞いたことがあり、害虫駆除などした場合、お金でなくともクーポン券かなにか配布して枚数がたまったら市内の野菜や果物と交換出来るような取り組みをしても面白いかもしれない。
- 小学生の子がいるため、一緒に学べるような機会があればぜひ参加したい。その際は対面ではなく zoom 等のオンラインイベントを希望する。民間ではよくあるが、市政が積極的にオンラインイベントを行っている印象が弱く、探しづらい。このご時世なかなか物に触れる、現場を体験することに抵抗はあるが、学びとしてはとても興味深く思っているのでご検討いただきたい。
- SNS で発信している NPO 法人を知りたい。
- 生物多様性保全活動は内容が分かりにくくて、とっつきにくい気がするので、市民の身近なところでの取り組みについて分かり易く指導していただければ、取り組み易くなっていくのではないかと考えています。
- 道路の街路樹が台風とかで切り倒され、その後、植栽されない事が多いように思う。地球温暖化でやっぱり植栽は必要だと思う。手入れとか、コストとかで考えるよりもみどり溢れる魅力のある街並みにするべきだと思う。
- 私的な事になりますが、過去 10 年、抗癌剤治療との戦いやコロナ問題で特にここ 3 年程、外出する機会を無くし、身体障害者になってしまいましたが、環境が整えば、堺いきもの情報館、堺自然ふれあいの森に出掛けるように努め、勉強させて頂きたいと願っています。
- よくわからないことなので、活動に参加してみたいと思う。
- このアンケートは知らないことが多く、自分の勉強にもなります。平成と書かれると何年かわからないので、西暦表示にしてください。
- 堺自然ふれあいの森は小さな小川や原っぱがあるので、2 歳の子ともと何度か遊びに行ったことがあります。近くで手軽に自然に触れて遊ぶのに最適です。もう少し大きくなったらイベントにも参加したいです。
- 前は参加するのに申し込んだが、今は広報で見かけない。
- 農薬の使用が生物環境に大きな影響を与えていると思います。無農薬野菜の推進を是非もっていただきたいです。学校給食に無農薬をとりいれてください。泉大津市の取り組みを参考に。
- 子どもと一緒に取り組める活動があればありがたいです。
- 参加したいが移動手段がない。
- 特にないが、何かはしなければいけない。異常気象だ。
- 害獣動物のアライグマを駆除したことにより、天敵がいなくなったマムシが田畑で大いに繁殖している。マムシの討伐数が年々増えてきたうえに、今年は近所でマムシに噛まれて病院に搬送される者もでてきました。マムシに対する対策を早い段階から考えておく必要があると思います。

- 子どもが体験できるイベントがあれば参加したい。広報を見ているが今まで気にかけていなかった。
- 環境保全活動に興味はあるし、社会貢献もしたい気持ちは持っているが、自分自身の生活で精一杯で余裕が無い。子どもが幼稚園小学生くらいまで大きくなったら親子で参加出来るイベントがあれば是非参加したいです。それまでは食品ロスを減らしたり、節電節水などの小さなことだけしていきます。
- 南部丘陵の木の伐採、下草刈り、地面に光を。丘陵保護活動。生物調査。
- 考えられた商品があることを知らなかったです。
- 自治会に声をかけてもらいたい。
- セミナーで専門家の話をきいてみたい。
- 在来種を守るため外来生物を池や川などに放たない。
- 学校単位での子ども参加型のイベントをもっとふやして意識改革
- 庭がある家で昆虫等を欲しい家庭に配る等の活動は無いのでしょうか。私の家の小さな庭にも昔は、鈴虫やコオロギ等が居ましたが、今は全く居ません。風情の無い庭になってしまいました。
- 庭への植栽は行ったことがあるが、カラス被害に遭うためにしているようなものになり、辞やめました。槇塚台 3 丁 4 丁は鳥害が酷いです。
- 生物多様性保全活動の言葉自体とつきにくい。
- 特にない。



「個人の環境活動に必要なもの」

問 52. 個人が生物多様性の保全を推進するような活動に取り組むにあたって、必要なものは何だと思われますか。

【複数選択可：いつでも】

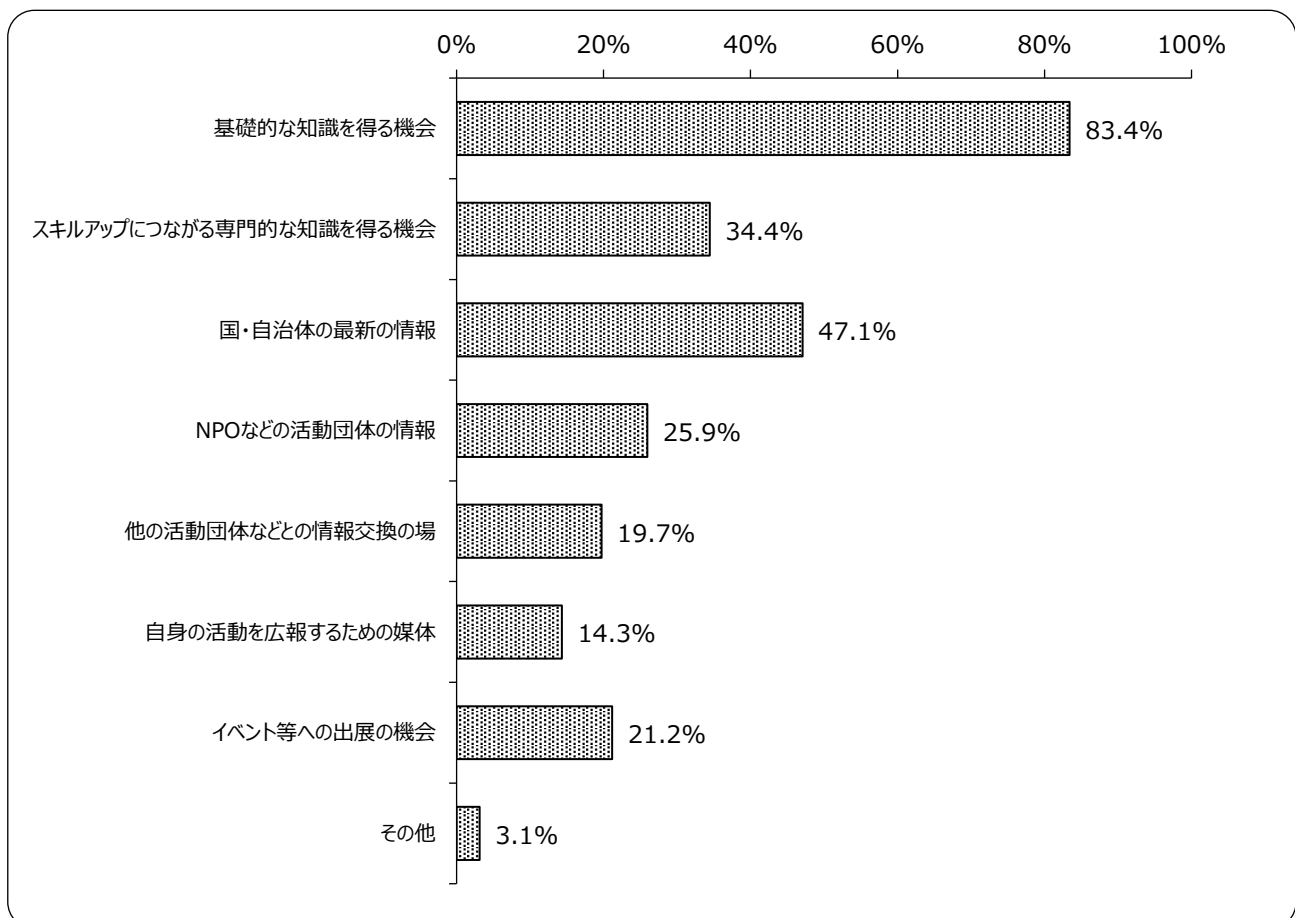
「基礎的な知識を得る機会」と回答した割合が 83.4%と高く、生物多様性保全のために何ができるかについての周知が十分にできていないことがわかった。他の設問の回答状況も加味し、周知の内容だけでなく、その方法についても検討が必要である。

	選択項目 (N=482)	回答数	回答数/N
1	基礎的な知識を得る機会	402	83.4%
2	スキルアップにつながる専門的な知識を得る機会	166	34.4%
3	国・自治体の最新の情報	227	47.1%
4	NPOなどの活動団体の情報	125	25.9%
5	他の活動団体などとの情報交換の場	95	19.7%
6	自身の活動を広報するための媒体	69	14.3%
7	イベント等への出展の機会	102	21.2%
8	その他	15	3.1%

[8 その他]

【主な回答】

- 行政による啓発
- 生物多様性の保全の必要性の教育
- 地元企業の協力



「自然環境保全等に必要な市の取組に関する意見」

問 53. 今後、本市の自然環境を保全したり、生き物と共生していくために、本市に特に、力を入れてほしい取組を選んでください。
【複数選択可：3 つまで】

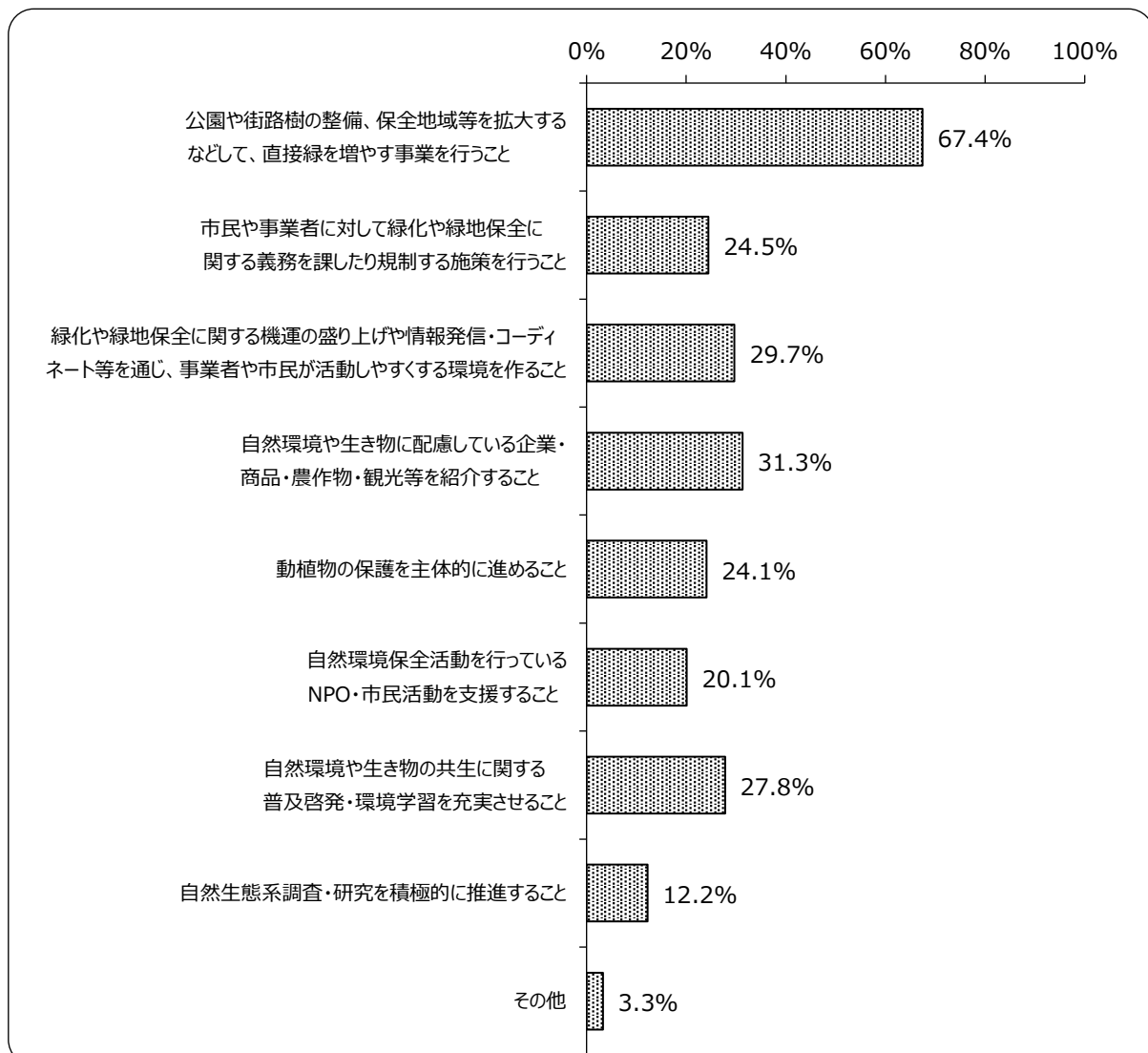
「公園や街路樹の整備、保全地域等を拡大するなどして、直接緑を増やす事業を行うこと」との回答が 67.4%と最も多く、主に緑を増やすハード面での整備を求める声が大いことがわかった。

	選択項目（N=482）	回答数	回答数/N
1	公園や街路樹の整備、保全地域等を拡大するなどして、直接緑を増やす事業を行うこと	325	67.4%
2	市民や事業者に対して緑化や緑地保全に関する義務を課したり規制する施策を行うこと	118	24.5%
3	緑化や緑地保全に関する機運の盛り上げや情報発信・コーディネート等を通じ、事業者や市民が活動しやすくする環境を作ること	143	29.7%
4	自然環境や生き物に配慮している企業・商品・農作物・観光等を紹介すること	151	31.3%
5	動植物の保護を主体的に進めること	116	24.1%
6	自然環境保全活動を行っているNPO・市民活動を支援すること	97	20.1%
7	自然環境や生き物の共生に関する普及啓発・環境学習を充実させること	134	27.8%
8	自然生態系調査・研究を積極的に推進すること	59	12.2%
9	その他	16	3.3%

[9 その他]

【主な回答】

- 教育の場での知識提供や、授業での体験などを増やしてほしい。
- 外来種駆除
- アートと緑化の組み合わせなど、プラスアルファの思考が必要



(4) 自然環境について

«自然を感じる場所»

問 54. 普段、市内のどのような場所に「生き物の多様性」や「自然の豊かさ」を感じますか。

【複数回答可：いくつでも】

「大仙公園や大泉緑地などの大規模公園」や「古墳」などと、広大な緑が広がっている場所に「生き物の多様性」や「自然の豊かさ」を感じる市民の割合が多いことがわかった。その一方で、「ため池」、「居住地の近隣にある地区公園」、「道路の緑（街路樹等）」などのより身近な自然環境に対して「生き物の多様性」や「自然の豊かさ」を感じる方の割合が少ないことがわかった。

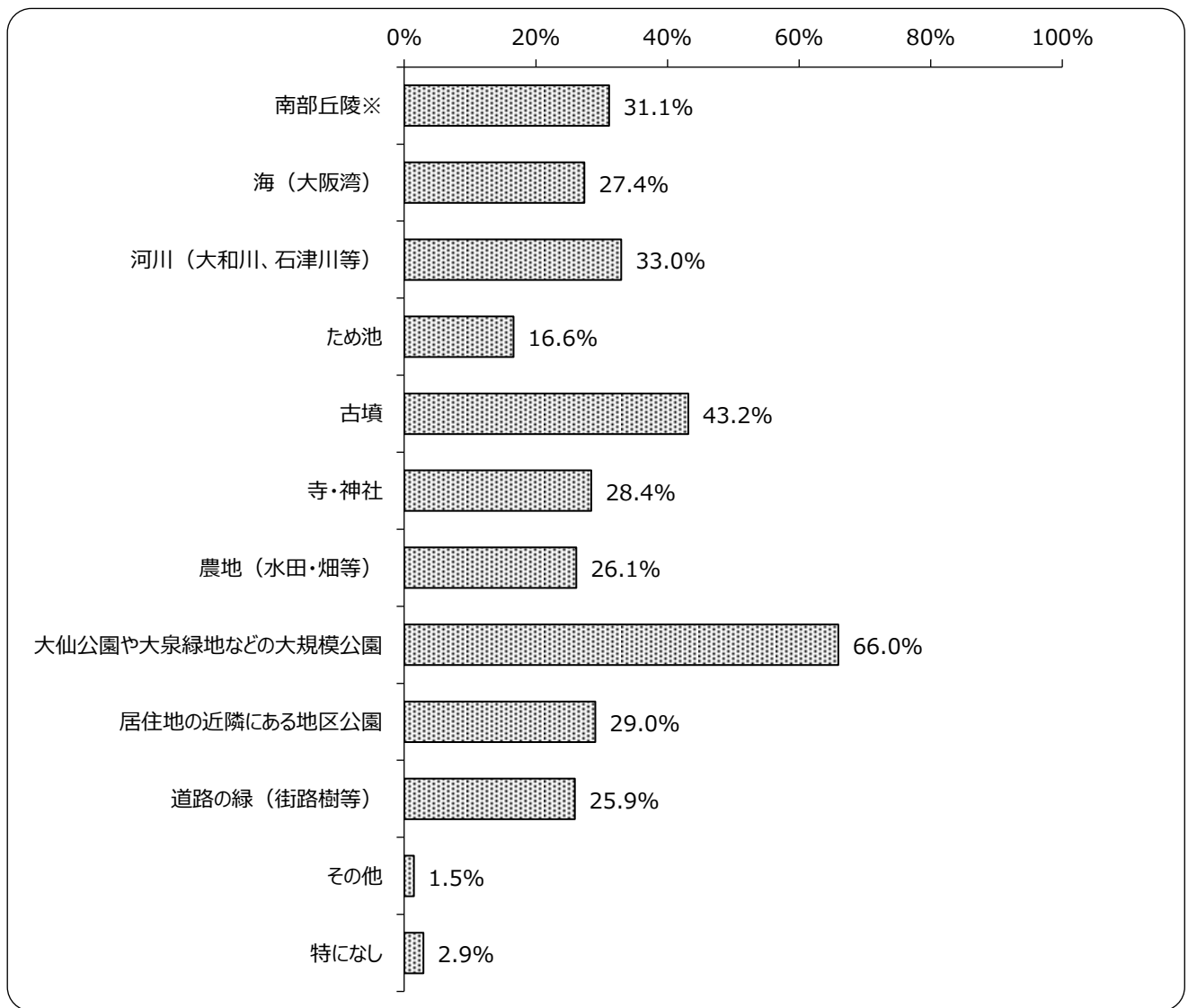
	選択項目 (N=482)	回答数	回答数/N
1	南部丘陵※	150	31.1%
2	海（大阪湾）	132	27.4%
3	河川（大和川、石津川等）	159	33.0%
4	ため池	80	16.6%
5	古墳	208	43.2%
6	寺・神社	137	28.4%
7	農地（水田・畑等）	126	26.1%
8	大仙公園や大泉緑地などの大規模公園	318	66.0%
9	居住地の近隣にある地区公園	140	29.0%
10	道路の緑（街路樹等）	125	25.9%
11	その他	7	1.5%
12	特になし	14	2.9%

※南区鉢ヶ峯寺地区、同区別所地区等の樹林地、農地、ため池等の自然環境のこと

[11 その他]

【主な回答】

- 目で見える景色に加え、耳から聞こえる自然の音
- 学校
- 緑道



「新型コロナウイルス感染症の拡大前後の自然環境に対する意識の変化」

問 55. 新型コロナウイルス感染症の拡大前に比べて、自然環境に対してどのような意識の変化がありましたか。

【複数選択可：いつでも】

50%以上の方が自然に対してより関心を持つようになったことがわかった。28.6%が「密を避け、海・川・森等、自然環境のフィールドに出かける機会が増えた」と回答しており、関心を持つだけでなく、自然に触れ合う機会が増えたことがわかった。

	選択項目 (N=482)	回答数	回答数/N
1	地域の身近な自然（公園、水辺等）や生き物（鳥、昆虫等）に興味を持つようになった	118	24.5%
2	植物や農作物の栽培に興味を持つようになった	99	20.5%
3	生き物に癒しを求め、ペットを飼うようになった	32	6.6%
4	自宅でインターネット等を通じて、自然や生き物の動画や画像を楽しむようになった	76	15.8%
5	密を避け、海・川・森等、自然環境のフィールドに出かける機会が増えた	138	28.6%
6	その他	5	1.0%
7	特に変化はない	217	45.0%

[6 その他]

【主な回答】

- 自宅の庭の植木や花に対する世話をする機会が増えた。

